特定非営利活動法人 つながるKYOTOプロジェクト

公益社団法人 長寿社会文化協会 WAC

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

訪ねてみよう
あなたの「まちの縁側・居場所」

コミュニティカフェガイドブック

京都版

特定非営利活動法人 つながるKYOTOプロジェクト

公益社団法人 長寿社会文化協会 WAC

まちの縁側、地域の居場所を探してみませんか。

「営利を求めるだけでなく、地域や住民のための活動を目指す場」
「それぞれの店がテーマを持ち、そこを居場所として人々が集う場」
「絆を生み出す地域の縁側」。コミュニティカフェはさまざまな言葉で定義されます。
単なるカフェではなく、既存のコミュニティにはない
新しいつながりが生まれるコミュニティカフェ。
人々は緩やかなつながりを求めて、居心地の良い空間を求めて集まってきます。
ガイドブックを片手に、あなたが好きな居場所を探してみてください。

ピクトグラムの凡例

活動内容

飲食
飲食サービスをしており、こだわりの食材を使用している。

情報
地域の人に必要かつ有益な情報を受発信している。

交流
地域の人々の交流の場となっている。

学び
必要なことを学べる講座や生涯学習の場となっている。

就労
就労が難しい人の働く場や訓練の場となっている。

販売
地域の手づくり品や、生活に役立つものなどを販売している。

サロン
介護保険や障害者手帳の有無にかかわらず、居場所に利用できる。

まちづくり
地域をどうしていくかなどを話し合う場となっている。

相談
悩みや困りごとを地域の専門家に相談できる。

レンタルスペース
講座や演奏会、アートの展示、会議などをする人にスペースを貸している。

芸術
アートの展示や演奏会など芸術的な催しを行っている。

読書
本がたくさんあり、思い思いに読んだり、読書会などを開いている。

利用者・対象者

高齢者

子ども（親）

障がい者（支援者）

若者

動物

訪ねてみよう
あなたの「まちの縁側・居場所」

コミュニティカフェガイドブック

京都版

CONTENTS

2 まちの縁側、地域の居場所を探してみませんか。

3 ピクトグラムの凡例

［コミュニティカフェがまちをつくる］

6 コミュニティカフェ開設や交流の全国センターの役割を担う
公益社団法人 長寿社会文化協会（WAC） 常務理事 浅川 澄一

7 京都の“居場所”と共にありたい
特定非営利活動法人 つながるKYOTOプロジェクト 理事長 小辻 寿規

［コミュニティカフェ紹介］

8 ① まちの学び舎 ハルハウス

10 ② まちの縁側 とねりこの家

12 ③ オレンジカフェ今出川

14 ④ かぜのね

16 ⑤ 喫茶YAOMON

18 ⑥ Impact Hub Kyoto

20 ⑦ キネマ・キッチン

22 ⑧ 518桃李庵

24 ⑨ 新大宮みんなの基地

25 ⑩ 風の駅

26 ⑪ musubi cafe

27 ⑫ おてらハウス

28 ⑬ 島原ふれあいクラブ

29 ⑭ フォーラムひこばえ

30 ⑮ 格致つどいの広場

31 ⑯ 茶房はとりべ

32 ⑰ Community Cafe Mali Mali

33 ⑱ 千中コミニテ食堂

34 ⑲ バザールカフェ

35 ⑳ にこにこや

36 ㉑ みんなのカフェ ちいろば

37 ㉒ かたりば朋

38 ㉓ ひばりサロン

39 ㉔ つどい場 てんきにな～れ

40 ㉕ café はなみずき

41 ㉖ ふかふか家

42 ㉗ ハイ・どうぞ

43 ㉘ カフェレストラン あむりた

［コミュニティカフェがまちをつくる］

44 こんなまちの縁側・居場所になったらいいな
特定非営利活動法人 まちの縁側育くみ隊 代表理事 延藤 安弘

45 金沢の歴史が育む人と人をつなぐ場
特定非営利活動法人 金沢観光創造会議 代表理事 加茂谷 慎治

46 コミュニティカフェの実践者の一人として
特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき 理事・事務局長 田代 美香

47 編集後記

＜人名の一部は敬称を略しています＞

コミュニティカフェ開設や交流の全国センターの役割を担う

公益社団法人 長寿社会文化協会（WAC）
常務理事
浅川 澄一

コミュニティカフェが全国に広がってきました。高齢者の気軽な出会い、子育てママの交流、障害者の協働――いろいろな思い、目的で始まった居場所作りの活動。それが地域再生、まちづくりにつながろうとしています。

WACは、早くからコミュニティカフェの開設支援や調査の活動に取り組んできました。新潟市の河田珪子さんが提唱した「地域の茶の間」に注目して同様の「茶の間」作りの支援に着手し、2002年から04年にかけて新潟と広島両市で地域の茶の間についてのシンポジウムを開きました。

2007年12月には、WACが編集した単行本「コミュニテイ・カフェをつくろう！」を学陽書房から発行。この時から、各地のさまざまな出会いの場を「コミュニティカフェ」と総称しています。

翌08年から、コミュニティカフェを成功させた実践者から運営ノウハウを学ぶ研究会をスタートさせました。カフェの現場で開催するなど工夫を凝らし、13年末までに34回と回を重ねています。

10年には富山と熊本の両県でカフェのガイドブックも作成しました。

また、全国のカフェの主宰者や運営希望者、研究者、行政関係者などが一堂に会する大会を09年に東京で開き、その後も毎年のように関係者の交流会を開いています。

こうしてWACはコミュニティカフェの全国センターに近い役割を果たしてきており、今回のWAMの居場所（カフェ）作り支援事業もその一環と位置付けています。

京都の“居場所”と共にありたい

特定非営利活動法人 つながるKYOTOプロジェクト
理事長
小辻 寿規

つながるKYOTOプロジェクトは、京都市における“まちの居場所（誰もが気軽に利用でき、ゆるやかなつながりを持つことができる場所。まちの縁側、コミュニティカフェともいう）”の開設や運営のための中間支援組織として、大学教員や大学生をはじめ、運営者自身や地域住民などが中心となって2008年に結成されました。

私たちは、まちの居場所の運営者と利用者のマッチングのためのホームページやガイドブックの作成のほか、実際の施設をめぐるツアーや体験イベントを行ってきました。また、こうした居場所の効果を探るため、さまざまな調査や研究も行っています。その結果、居場所には、人々を孤立させないための一定の効果があること、まちづくりの一翼を担う働きがあることが明らかとなりました。しかし、それと同時に、居場所同士にもつながりが必要であり、そのネットワーク作りが非常に重要であるということを痛感しました。

私たちはこれまで、京都市を中心に活動を続けてきましたが、今回WAC（長寿社会文化協会）の呼びかけにより、全国で同様の活動をされている皆さま方とともに、ガイドブックの作成や開設支援講座など、多方面からまちの居場所を支援する機会に恵まれました。私たち自身も、3年前に独自で京都市内のガイドブックを作った経験がありましたが、この数年間で京都にはさらに多くの居場所が誕生しており、今回の取材は私たちにとってもその変化と熱気を改めて感じることのできる楽しい旅となりました。

今後も、今のこの活動をベースに京都のまちの居場所とともにあるNPOであり続けたいと考えています。

1
北区

飲食 交流 まちづくり 高齢者 子ども 障がい者

まちの学び舎 ハルハウス

暮らしのなかで大切なことを気づかせてくれる居場所

☎075-451-6733
京都市北区紫野十二坊町16-16

[URL] http://www.kunihouse.jp
[運営] 一般財団法人まちの縁側クニハウス
＆まちの学び舎ハルハウス

[営業時間] ●京雑炊ハルハウス
6:00～10:00　年中無休
●まちの学び舎ハルハウス
10:00～16:00　木・日曜休

[メニュー] ●京雑炊　400円
●コーヒー　200円
●ゼリーなど　100円～

はじまりは京都版 まちの縁側クニハウス

まちの学び舎ハルハウスの代表である丹羽國子さんが京都に居を移したのは、大学で教鞭（きょうべん）をとるため。その後しばらくして、丹羽さんは京都市北区に一軒家を借ります。その１階で始めた居場所づくりの活動が、ハルハウスの始まりです。

それまで名古屋市内で「まちの縁側クニハウス」を構え、居場所づくりの活動を行っていた丹羽さんには確かなビジョンがありました。「向こう三軒両隣が仲良くなれば、みんなで支えあえる。日本を再びそんな国にして、住み慣れた土地でお互いに助け合い支え合って、健やかな生活が送れるようにしたい」。現在、丹羽さんのそんな思いに共感した人が、京都だけでなく全国から訪れています。そして、この場所で受けた刺激を持ち帰り、各地で自分たちの「居場所」づくりを始めようとする人も後を絶ちません。

健康は一杯の「京雑炊」から

「美味しくて、そのうえ力が出る。パワーモーニングだ」とは、いつもここで朝食をとる常連のお客さんの弁。ハルハウスは、毎朝6時から10時までは、「京雑炊ハルハウス」として朝食を

メインに営業。オリジナルのにんにく酒をベースにした野菜たっぷりの「京雑炊」が、地域の朝ごはんを支えています。看護師でもある丹羽さんによれば、「健康づくりのためには朝食が大切。朝をしっかり食べればたくさんの栄養がとれて仕事も勉強も上手くいく。そのためには雑炊が食べやすくてぴったりだから」と語ります。

暮らしのなかで大切なことは何か、そんな当たり前のことを気づかせてくれるのが、まちの学び舎ハルハウスの役目といえるのかもしれません。

2
上京区

飲食 情報 交流 相談 高齢者 子ども 障がい者

まちの縁側 とねりこの家

まちや地域で健康であるために

☎075-431-7600
京都市上京区一条通新町西入元真如堂町370

[URL] http://www.geocities.jp/tonerikonoie
[運営] 水無瀬文子

[営業時間] 10:00～16:00
日曜休
※イベントがある場合は営業
[年会費] 2,000円

誰もがまちのまんなかで暮らせるように

京都市で長く保健師の仕事をしていた水無瀬文子さんが、「1人の健康のためには、まちや地域が健康でなければならない。まちの文化を継承しなくては」との思いから「とねりこの家」を開いたのは2004年の秋のこと。「年をとっても、障害があっても、こどもたちも、みんながまちのまんなかで生きがいを持って暮らせるように」をテーマに、障がい者の共同作業所や子育てネットワーク、ボランティアグループの拠点となるような居場所として、住宅地の一角で活動が始まりました。

「とねりこの家」の主な取り組みは、子どもからお年寄りまでが気軽に訪れて話に花を咲かせる「交流サロン」。また、子育て支援の活動である「つどいの広場」は、木曜日を除いた平日と土曜日に開かれ、乳幼児を育てるママさんたちが情報交換したり、保育士や保健師からのアドバイスを受けたりしています。

内と外の曖昧な境界、縁側

「とねりこの家」の軒先には、こじんまりとした縁側があります。家の内側にあるものとも外側に伸びているものともいえない縁側。その内と外との

曖昧な境界が、「とねりこの家」の性格を表しているのかもしれません。水無瀬さんは、「自分が幼い頃、近所の人や道行く人が家の縁側にちょんと腰を下ろして、お茶を飲んで他愛もない世間話をしていた様子を懐かしく感じる」と言います。同じように、「とねりこの家」も現代の縁側として、様々な人が気軽に立ち寄り、交流できる場であって欲しいとのこと。今後はお茶や生花の教室なども開いて、さらにたくさんの人に訪れてもらえる機会をつくっていくそうです。

3
上京区

交流 学び 相談 高齢者

オレンジカフェ今出川

認知症の家族と当事者のための“セカンド・リビング”

☎080-6210-2335
※訪問の際は事前にお問い合わせください

［運営］オレンジカフェ・コモンズ

［営業時間］日曜のみ営業
10:00～15:00

［メニュー］●コーヒー　100円

日曜日は「オレンジカフェ」の日

京都市内の「まちの縁側」として長く親しまれている「とねりこの家」（P.10）。ほぼ毎週日曜日、この場所を使って開かれているのが認知症カフェの「オレンジカフェ今出川」（以下オレンジカフェ）です。

認知症カフェとは、認知症と診断された本人と、その介護をする人（主に家族）が訪れ、時間やプログラムに縛られることなく、リラックスして過ごすことのできる場所。カフェの開催日には、医師をはじめ専門知識を有したスタッフやボランティアも多数参加していますが、白衣やエプロンなどは身につけず、利用者の方と同じ立場、同じ目線に立つことを心がけ、常に会話や笑いの絶えない空間となっています。

認知症カフェの“先駆け”から、常に挑戦する“実験店舗”へ

このオレンジカフェを開いたのは、京都大学医学部附属病院の「もの忘れ外来」にて、認知症の患者さんを診ている武地一（はじめ）先生＝写真右＝。カフェ開設のきっかけを尋ねてみると、「最近では認知症も早期診断が可能となってきています。しかし、現行の制度では、認知症初期と診断された患者さんが利用できるサービスというものがない。診断は初期であろうと、家庭のなかでは既に生活に支障が生じてきたりしているので、その人たちが利用できる場をつくりたいと思った」とのこと。また、「この場所は認知症カフェの実験店舗。ここでいろいろなことを試して、それが他の場所へも広がっていけば」と、この今出川での取り組みがひとつところに留まらない活動へ展開していくことを見据えています。

今や4人に1人が認知症またはその予備軍と言われる時代。医療と家庭と地域の三者が一体となってこそ、適切なケアが行えるとの思いのもと、オレンジカフェの挑戦が始まっています。

4
左京区

飲食 情報 交流 学び 販売 高齢者 子ども

かぜのね

気軽に世の中の問題を話し合える場に

☎075-721-4522
京都市左京区田中下柳町7-2

[URL] http://kazenone.org
[運営] 春山文枝、海南友子、福永浩司、片岡大輔、芝菜津子

[営業時間] 12:00～22:00
月・火曜休

[メニュー]
- コーヒー 350円～
- 日替わりケーキ 400円
- 定食 700円～

キャッチコピーは「知る・感じる・つながる」

大学で講師をしながら、NGOやNPO、市民運動などについて研究を続けていた春山文枝さんが「かぜのね」の立ち上げを考えたのは、もっと気軽に世の中の問題を話し合える場と仲間が欲しい、と感じたから。自由で開放的な雰囲気の中でお茶の一杯でも飲みながらなら、社会問題に思い入れのない人でも立ち寄ってくれるかもしれない。また、自分たちが行きたいと思えるようなカフェなら、地域の人たちも来てくれるだろう —— そう思った春山さんは、共同経営者を募り、京都大学にほど近い出町柳の地に古いアパートを改修して「かぜのね」を始めました。カフェのキャッチコピーは「知る・感じる・つながる」。新しい知識に触れることができたり、美味しい料理やお酒に舌鼓を打ったり、カフェやシェアスペース、シェアオフィスといった場作りで、いろいろな人に出会えることを示しています。

目ざすのは顔のみえる関係

「顔のみえる関係」もキーワードのひとつ。「かぜのね」では、食材から食器に至るまで、誰が作ったかを把握できるようになっています。また、東日本大震災をきっかけに生まれた「顔のみえる電力プロジェクト」によって、カフェで使用される電力は、「かぜのね」に備えつけられた太陽光パネルでまかなわれるようになりました。

カフェの奥は20畳ほどの多目的スペースになっていて、会議やイベントに使うことも可能。2階はシェアオフィスになっていて、小さな事業所が並んでいます。少し立ち寄るだけならカフェ、イベントをするなら多目的スペース、継続的に活動するならシェアオフィスに。「市民」の交流と活動を、こうやって多方面から支えてくれるのが「かぜのね」の特徴です。

5
上京区

飲食 情報 まちづくり 高齢者 障がい者 若者

喫茶 YAOMON

人が場所を作り、場所が人をつなげるカフェ

☎075-241-4416
京都市上京区今出川通寺町西入ル革堂内町522

[URL] http://www.yaomon.net
[運営] 佐々木真

[営業時間] 11:00～19:00
※上記時間以外は要予約
日曜、祝日休

[メニュー] ●コーヒー 350円
●紅茶 300円

地域の中をつなぐ キーステーション

『有頂天家族』をはじめとする森見登美彦の小説にもたびたび登場する出町商店街を通り抜け、京都御所や同志社大学へ向かって行くと、ダンディーなマスター佐々木真さんと看板犬のグーグーが迎えてくれるカフェ「喫茶YAOMON」に出会います。昔懐かしい雰囲気が漂う「YAOMON」は、この町の老舗仕出し屋の喫茶部門として1983年に誕生しました。

一見すると普通の喫茶店である「YAOMON」ですが、実際はかなりユニーク。なぜなら、ここでは毎日のように地域住民や高齢者の交流が行われ、営業時間が終われば喫茶店はまちづくりやNPOの会議場に変身するからです。また、週に何日かは同志社大学の学外キャンパスとしても使われていますが、それらは皆独立した動きではなく、すべてがこの場を介してリンクしたものとなっています。

佐々木さんは、何かやりたいことがある人が訪れると、「YAOMON」のなかにある様々な資源に繋いでいきます。そうしていつの間にか、多くの人の“拠り所”としての場が育ってきました。

喫茶店からコミュニティカフェへ

「喫茶店のつもりで開業したのに色々と仕事を任せられて、いつのまにかコミュニティカフェになってしまった」と佐々木さんは優しく笑います。キャンパスの移転により喫茶店の主なお客さんだった大学生が激減しながら、コミュニティカフェとして地域の中での“居場所”を確保した「YAOMON」には、しなやかな強さがあります。

佐々木さんの魅力のもとに多くの人が集まり、色々なまちづくりの企画が生まれていく―― 場所とともに、人の力がコミュニティを繋いでいくことを教えてくれるのが、「喫茶YAOMON」の一番の魅力と言えるかもしれません。

6
上京区

情報 交流 学び 若者

Impact Hub Kyoto

社会を、世界を変えるために己と向き合う研鑽（けんさん）の場

☎075-417-0115
京都市上京区相国寺門前町682

［URL］ http://kyoto.impacthub.net
［運営］ 一般社団法人 Impact Hub Kyoto

［営業時間］ 10:00～18:00
土・日曜、祝日休

感性と創造性を刺激する空間

烏丸通り沿い、相国寺に隣りあう築120年の建物。こころの広場・虚白院の一角にあるのが「Impact Hub Kyoto（以下Hub京都）」です。2005年にロンドンで始まり、世界に広がった「Impact Hub」のひとつであり、社会を変える志を持つ起業家たちのネットワーク構築の場でもあります。

Hub京都が掲げるテーマは、

Dojo（道場） for change
自ら変化の渦であれ。

社会や世界を変えたいと強く願う人たちが集い、学び合い、新たな行動を起こす場所こそHub京都なのです。

社会や世界を変えるには、まず自分自身が変わらなければ、持続可能なインパクトは生まれません。「感性と創造性を刺激する場」のコンセプトのもと、異なる仕事や多彩な分野で活動する人々が、空間を共有しあい、互いの感性や志に刺激を受けながら、自らを磨きあげる拠点となっているのです。

刺激し合い、巻き起こる変化の渦

Hub京都の内部は、いくつかの異なる場に分かれています。玄関を入ってすぐに目に入るのは、懐かしい校舎を

連想させる交流の場。会員は無料で、一般利用者は500円で、湯茶一式を使うことができます。机に向かって作業をしたり、輪を作ってアイデアを出し合ったりとその活用法もさまざまです。隣に位置するのは、能舞台。ここでは、ヨガやダンスなどの身体的ワーク・パフォーマンスが繰り広げられます。「静」と「動」。深い文化と新しい創造。心と身体。さまざまな要素が出会い、刺激し合うことで、この京都から、世界を変える渦が巻き起こっていくのです。

7
右京区

飲食 情報 交流 高齢者 若者

キネマ・キッチン

まちの資源でコミュニティを元気に

☎075-871-6556
京都市右京区太秦多藪町43

[URL] https://facebook.com/Kinemakitchin
[運営] NPO法人 子育ては親育て・みのりのもり劇場

[営業時間] 11:00～23:00
日曜、祝日休
[メニュー] ●おばんざいバイキング 880円

映画ファンも、それ以外でも楽しめる場所

太秦の、広隆寺の脇道を入って伸びる大映通り商店街の一角にある「うずキネマ館」、その1階で営業しているのが「キネマ・キッチン」です。

「キネマ・キッチン」は、その名の通り映画（キネマ）がテーマ。大魔神やガメラ、勝新太郎に市川雷蔵……寄贈を受けて店内に飾られた映画のポスターやパンフレット、台本には、大映映画のスター達が華々しく登場し、古い映写機やカチンコ（カッチン！と音が鳴るアレ）とともに、銀幕ならぬカフェスペースを彩ります。

地産地消で、「食」を大切にする

レトロな外観、そして内装の店舗は、近隣に住む人や子どもたちに手伝ってもらって完成させました。そして、この懐かしい雰囲気にあふれた店内で人気なのが、勝新太郎の「かつ」と市川雷蔵の「らい」をかけて命名されたボリュームたっぷりの「かつライス」。その他、日替わりの定食やおばんざいバイキングなど、しっかり食事ができるのも「キネマ・キッチン」の大きな魅力です。

提供されるメニューはどれも“地産地消”を心がけて作られており、自家製のしそジュースやほうじ茶プリンなど、スイーツメニューも充実しています。

地域の資源を、まちの宝に

大映通り商店街と協働して作られたこの場所は、高齢者の利用も多く、夕方、バータイムに差しかかる時間帯などに、近隣に限ってですが、弁当の配達も行っています。

地域の資産である「映画」を切り口にしてはいるものの、根底にあるのは「地域と人がもっと関わりあって、活発に交流できる」こと。そのため、「キネマ・キッチン」では、「映画上映会」や「青春の歌声喫茶」などイベントも積極的に開催しており、世代を超えた地域の集いの場となっています。

8
上京区

情報 交流 まちづくり 若者

518桃李庵

魅力あふれる京都の未来を創造するラボ（＝実験場）

☎075-205-1534
京都市上京区挽木町518

［URL］ http://homes-vi.com
［運営］ NPO法人場とつながりラボhome's vi

［営業時間］ 10:00～18:00
土・日曜休
（イベントの場合は土・日曜も営業）

人と人をつなぐ場づくりの拠点

上京区挽木町518。機織りの音が響く路地を進んだ町家の一角に、NPO法人場とつながりラボhome's viと日本患者学会のシェアオフィスを兼ねる「518桃李庵」はあります。

home's vi代表の嘉村賢州さんは、大学在学中に仲間とシェアハウスを運営した経験から、人と人とのつながりづくりや場をつくることの楽しさ、重要性に気がつきました。

その後、シェアハウスのメンバーはいったん就職したものの、改めて新しい名前でシェアハウスを開始。そこから生まれた、場づくりについて考える団体をNPO法人化し、その拠点として「518桃李庵」を開きました。その活動のベースには、「新しい社会のあり方、組織のあり方、生き方のモデルを、社会活動と日常の暮らしの両面から実践」するという思いがあります。

世代も立場も超えた交流の場

実は、路地の一番奥にあるこの町屋は、長年使われていない空間でした。その場所を改装して広く若者に開くことを快諾してくれた大家さんは、「せっかくきれいに改装できたのに、誰か個人に貸してしまって、自分も中を見られないようになるのは残念」と

言い、さらには現在「桃李庵」で長く続くメンバー制の食事会「ごいちや食堂」で料理の腕をふるってくれるとか。

学生やNPOメンバー、大家さんなど、立場も世代も異なる人が融合して集える場所は、京都という「若者を見守ってくれる懐の深い文化」ならではともいえます。お互いがゆるくつながりながら、それぞれが生き方や働き方を模索する場、それが「518桃李庵」です。

9
北区

飲食 情報 交流 学び サロン まちづくり

新大宮みんなの基地

**商店街と若者が手を組んで
運営しているまちの拠点**

「お祭り」から生まれた、常設型コミュニティスペース

「京都市内で一番長い商店街」こと新大宮商店街。ここに、シェアオフィスや住居の機能をもちながら、まちの人たちと学生がともにまちづくりに取り組む拠点「新大宮みんなの基地」があります。

この場所が生まれたきっかけは、2003年に始まった商店街主催のお祭り「そらたね祭」。第7回を数えた2009年の準備の際、若者たちが1カ月間限定で空き店舗を借り受けた経験から、若者たちがいつも集まることのできるスペースを、商店街のなかに作ることになりました。

「新大宮みんなの基地」のある建物は2階建て。1階は企業や行政書士の事務所なども入居するシェアオフィスに加え、コミュニティスペースとしても使用されています。商店街の食材を囲む交流会やまちあるきイベントなど、さまざまな取り組みが生まれてきました。

商店街と若者が、お互いを補いながら、理想的な交流の場所が出来上がっています。

☎ 075-200-9295
京都市京都市北区紫野上門前町21

[URL] https://www.facebook.com/minnanokichi
[運営] 株式会社基地計画
[営業時間] 9:00～18:00
土・日曜、祝日休

10
上京区

飲食 情報 サロン まちづくり レンタルスペース 読書

風の駅

**旅をしたい人のための、
小さな観光案内所**

旅情報を集めたサロン

出町三角州からほど近い出町桝形商店街。この商店街のスーパーの2階、街行く人の喧噪から隔てられた場所に、こじんまりとした佇まいの「風の駅」はあります。

「風の駅」にはところ狭しと書物が並べられていますが、いわゆるブックカフェと様子が違うのは、それらの多くが商業刊行物ではなく、フリーペーパーに代表される“リトルプレス”（個人や組織が企画から発行まで自分で行う小冊子）であるところ。しかもそうしたパンフレットやフリーペーパーの類は、出町柳や京都のもののみならず、全国各地のものまで置かれていて、自分が行ったことがない土地の見どころや出来事を教えてくれます。

旅に出たいと思ったときに「風の駅」を訪ねれば、旅行のヒントが店内に溢れている。つまりここは旅の出発地点＝駅なのです。桝形商店街を回遊する人びとをぼんやり眺め下ろしながら、まだ見ぬ街の様子に思いを馳せてみる――「風の駅」は、こうしたことができる空間を提供してくれるのです。

☎ 075-251-6467
京都市上京区桝形通河原町西入る二神町176-2-2F

[URL] http://kazenoeki.main.jp
[運営] 大貫まひろ
[営業時間] 10:00～18:00
[利用料] 400円（ワンドリンク付き）

11
西京区

musubi cafe

走る楽しさが人と人を“結ぶ”カフェ

京都で初めてのランニングステーション

嵐山を流れる桂川沿いで、ジョギングやランニングを楽しむ人が集まる「musubi cafe」。ここは、京都市内でも先駆け的な、シャワー室やロッカーを備えたランニングステーション。ランを愛する3人のオーナーが、仲間やつながりを作る場所が欲しいとの思いをもって、2009年にオープンしました。

人と人、人と食、人とランを「結ぶ」場所

「musubi cafe」では、ランナーをさまざまな角度からサポートしています。

その1つがメニュー。「身土不二」という、地産地消の考え方をベースに、動物性蛋白質を抑え、京都の土地で採れた食材を中心に組み立てられた品々は、カロリーだけを目安にせず、走るときのスタミナや健康、栄養などに配慮し、人気を呼んでいます。

その他、ランを通じたイベントによる交流も盛んなのがこの場所の特徴。フルマラソン完走を目指した練習会の開催や初心者のための走り方講座のほか、ここに集まるメンバーで各地の駅伝に参加したり、マラソンツアーを企画するなど、「ラン」という共通項から人のつながりが加速しています。

☎ 075-862-4195
京都市西京区嵐山西一川町1-8

[URL] http://www.musubi-cafe.jp

[営業時間] 月～金曜 10:30～20:00
土曜 10:00～22:00
日曜 10:00～20:00
火曜不定休

[メニュー]
- 楽穀菜食ランチ 850円
- 身土不二ランチ 950円
- ベジパウンドケーキ 400円

12
下京区

おてらハウス

お寺を地域の交流の場に

和のテイストが心地よい、お寺併設のアートギャラリー

京都の中心市街地、四条河原町にほど近い仏光寺通りにあるのが、大善院というお寺に併設された「おてらハウス」。通常、お寺に出入りするといえば檀家の方がほとんどですが、一般の人にももっとお寺に来て欲しいとの思いから、居場所として開かれるようになりました。営業のメインはアートギャラリー。住職でもある佐々木正祥さんが、もともと絵が

好きだったため、お寺にギャラリーを開くことでアートに触れる機会も増えるのでは、という思いもあったとのこと。展示の内容も、単なる絵画展だけでなく、ライブペインティングから時には音楽のライブまでと、工夫をこらした幅の広い内容が好評を博しています。

「高齢者や障がい者などさまざまな人たちに気軽に、信仰に関わらずお寺に来てほしい。そして、おてらハウスでの活動を通して運営者自身も相乗的に生き生きとした生活ができれば」。宗教の垣根を超えた居場所づくりが始まっています。

☎ 075-351-4883
京都市下京区新開町397-9 真宗仏光寺派 大善院

[URL] http://www.daizenin.com

[運営] 大善院

[営業時間] 11:00~18:00（日曜日は17:00まで）
月・火曜休

[メニュー]
- ブレンドコーヒー 380円
- カプチーノ 430円
- 紅茶 380円 ほか

13
下京区

交流 サロン 相談 高齢者 若者

島原ふれあいクラブ

地域を超えた交流の場づくり

高齢者が集う「まちの居場所」

京都のまちづくりを語るうえで欠かせない「学区（元学区）」の考え方。この歴史ある「元学区」を大事にして地域のつながりを深めている居場所もあれば、新しい挑戦を始めている居場所もあります。

歴史情緒あふれる島原。ここでも学区の影響が色濃くあり、以前は地域間の交流もごく狭いものでした。

「島原ふれあいクラブ」は、そんな状況を前にした代表の駒井義弘さんの「地域の高齢者が学区（元学区）の内外を問わず交流できたらいいのに」という思いから始まりました。

場所をひらいてからは、西本願寺からお寺の話を伺ったり、栄養士の方から食事指導の話を聞いたり、またある時は若い世代を集めて「居場所」に関するお話し会を開いたりと、さまざまな交流を仕掛けてきました。カラオケセットも備えているため、歌を楽しみに訪れる人も多いのですが、一方で「歌は馴染まない」という人も。そこでこれからは、講演にもますます力を入れて、地域だけでなく、世代を超えた利用者を増やしていこうと計画中です。

☎ 075-351-3728
京都市下京区薬園町148

［運営］駒井義弘

［営業時間］第1・第3土曜のみ開催
13:30～16:00

14
右京区

交流 学び まちづくり 高齢者 子ども 障がい者

フォーラムひこばえ

誰もが主体的に活動できる場所

多世代交流が盛ん

人と人とのつながりを活性化し、誰もが暮らしやすい社会をつくりたいという願いから、2005年に「フォーラムひこばえ」が誕生しました。もともと設計事務所だった建物を、持主からの厚意で借り受け、さらに多くの人からの寄付と借入金をもとに改修したそうです。自然素材にこだわった、木の香漂う素敵な建物で、周りには自然がいっぱい。幼児からお年寄りまでさまざまな世代の人たちが気軽に集い、「ほっこり」とできる地域の拠点となっています。

開設当初から力を入れていた「子どもクラブ」と「ちっちゃい子クラブ」が、京都初のNPO立児童館・学童保育所として認可され、行政から受託する形で運営しています。公的な学童保育所に位置づけられたことによって、利用者の負担も減り、子どもの人数も増えたそうで、いつ訪れても子どもたちの元気な姿が見られます。また、地域住民の交流を深めることを目的として週に1度、「会食会」を開いたり、各種サークルや講座を実施したりと、自主事業も活発です。年に1度、大きな楽しいイベントも開催しているので、ぜひ訪れてみて下さい。

☎ 075-463-0438
京都市右京区宇多野福王子町45-2

［URL］http://hikobae.org

［運営］NPO法人フォーラムひこばえ

［営業時間］9:00～17:00
日曜、祝日休

15
下京区

情報 学び 相談 子ども

格致つどいの広場

子どもと一緒に、大人も「育つ」場

「子育て」を通じて、地域の人の交流を図る

「格致つどいの広場」は、京都市が「市民・地域ぐるみで子育てを支えあう子育て支援の風土づくり」として市内に開設を進めている「つどいの広場」のひとつ。おもに0歳、1歳、2歳の子どもをもつパパやママのためにひらかれた、地域のなかのくつろぎスペースです。ここでは、一緒に遊んだり休憩できるだけでなく、子育てアドバイザーが常駐しているので、育児をするうえで疑問に思ったことや、不安を感じることを相談できるのも特徴です。

また、以前は小学校の校舎として使われていた建物を「つどいの広場」に使っているのは京都のなかでもここだけ。学校ゆえに、施設内には段差があったり傾斜があったり、ともすれば「危ない」場所もありますが、そうしたものを通して、子どもたちの成長を見守る場でもありたいとのことです。

利用対象はむしろ大人。「子育て」を通じて地域の人々が繋がれる場を目指し、セミナーやイベントなども積極的に行っています。子どもと一緒に大人も育つ「格致つどいの広場」です。

☎ 075-353-8250
京都市下京区油小路高辻上る西高辻町602 元格致小学校2階

[URL] http://kakuchitsudoi.web.fc2.com

[運営] 若林周子（チャイルドライン京都）

[営業時間] 10:00～16:00
水・日曜、祝日休

[利用料] 無料

16
上京区

飲食 サロン 高齢者

茶房はとりべ

地域と世代をつなぐ、「元学区」の絆

「8」のつく日を楽しみに集う

「茶房はとりべ」は、1995年に閉校となった西陣小学校の旧校舎で、月に3度ほど開かれているサロンです。利用するには、お茶代として200円を払うのみ。常に20～30名もの人でにぎわい、皆で気軽なおしゃべりや、歌、三味線の会などを楽しんでいます。

このサロンの始まりには、京都に深く根づいた「学区（元学区）」の考え方を欠かすことができません。旧西陣小学校の元学区は西陣。この地域は、近隣の4つの学区にあった小学校が統合されて、今は西陣中央小学校の学区となっていますが、地域の人たちは今でもこの「元学区」を主要な単位として、地域のつながりを深めています。

「元気な高齢者が居てくれるだけで、まちの力になるんです」とは、「はとりべ」の世話役を務める藤林宏さん。西陣地区では、定期的にマルシェを行うなど、まちづくりに力を入れています。連綿と続く「西陣小学校出身の絆」を大切にしながらも、新しく地域に入ってくる若い世代との橋渡しも始まっています。

☎ 075-432-9535（京都市上京区社会福祉協議会）
京都市上京区上立売通堀川西入幸在町689 元西陣小学校本館

[運営] 藤林　宏

[営業時間] 毎月8・18・28日のみ営業
10:00～12:00

[メニュー] ●コーヒー（茶菓子付き）　200円

17
南区

飲食 交流 就労 子ども 若者

Community Cafe Mali Mali

生活と就労、2つの面から人と地域を支えるカフェ

笑顔のあふれるカフェを目指して

「コミュニティカフェMali Mali」は、就労に問題を抱えている人が社会に参加し自立していくための就労体験先として、2010年に京都自立就労サポートセンターにより開設されました。それまで、就労体験の場は企業やNPOなど外部に委託していましたが、就労希望者の働きぶりを身近にみて、より質の高い相談業務を行うため、自らでも体験先を確保するために始まりました。Mali Maliという名前は、ポリネシア諸島にあるトンガ王国の言葉で「笑顔」を意味する単語に由来します。

就労を希望する人は、このMali Maliでスタッフとして働きながら自立の道を模索します。メニューは「健康に配慮した食事」がモットーで、まちの学び舎ハルハウス直伝の「京雑炊」のほか、手ごろな価格のランチプレート（500円）も好評です。

そのほか、映画鑑賞や調理会、他のNPOが主催する生活保護受給者の茶話会などイベントも数多く企画され、利用者の交流の場ともなっていますが、今後はもっと地域の人の利用を促進し、居場所としての機能も充実させ、その名の通り笑顔のあふれる場所づくりを目指します。

☎ 075-692-3471
京都市南区東九条下殿田町70番地 京都テルサ西館1F

[URL] http://www.kyoto-terrsa.or.jp/restaurant.html
[運営] 京都自立就労サポートセンター

[営業時間] 9:00～17:00
土・日曜、祝日休
[メニュー] ●ランチプレート　500円

18
上京区

飲食 交流 就労 若者

千中コミニテ食堂

町屋に集う“結縁家族”を目指して

みんなで作って、みんなで食べるレストラン

千本中立売を東に入ったところに店を構える「千中コミニテ食堂」。NPO法人「恒河沙母親の会」が、2006年にコミュニティレストランとして立ち上げました。代表である福島美枝子さんは、元国語教師。退職後、不登校の生徒のためのフリースクールなどに携わった経験から、本来自分が入居する予定だった町屋を、引きこもりの青年の就労支援の場として提供することに決めたのです。

レストランと銘打ってはいますが、メニューは特に決まっておらず、その日自分たちで運営する畑（京野菜の産地、西賀茂にある）でどんな野菜が取れたかによって献立を決めています。はじめの頃こそメンバーが手探りで料理していましたが、その様子を見た近所の人が徐々に手伝ってくれるようになり、今では10代から80代までの幅広い層の人が集まって、賑やかに食事を楽しむようになりました。地域の人たちと自然に共にいることで、子どもたちも自然に笑顔を取り戻す――地域の力が彼らの居場所を支えています。

☎ 075-414-4192
京都市上京区中立売通千本東入田丸町379-3

[URL] http://gougasya.s11.xrea.com
[運営] NPO法人 恒河沙母親の会

[営業時間] 10:00～14:00
水・土・日曜休

19
上京区

バザールカフェ

コーヒー1杯がつなぐ、緩やかでも確かな絆

奉仕の精神が息づく交流の拠点

「バザールカフェ」が入居する洋館は、同志社大学のアーモスト館などと同様、明治から昭和にかけて日本に数多くの洋館を建てた建築家、ウィリアム・ヴォーリズにより設計されました。もともとこの建物は外国人宣教師の邸宅で、ホームパーティーなどによく使われていたとのこと。広い庭をもつ「バザールカフェ」は、その1階で営まれています。

ボランティアスタッフも数多く関わる「バザールカフェ」ですが、日本での雇用の機会が限られている留学生の就労支援を積極的に行っているのも特徴の1つ。定番メニューのほかに日替わりで登場するエスニック料理では、タイやブラジルなどの家庭料理を、本場の味で楽しむことができます。

他にも「バザールカフェ」には、障がい者や性的マイノリティなど、日本社会のさまざまな場所で弱者の立場に立つ人たちが集ってきます。ここではそうした多様な人々が、コーヒー1杯でゆるくつながり、互いの違いを理解しつつ情報を交換する場所になっています。

☎075-411-2379
京都市上京区岡松町258

[URL] http://bazaarcafekyoto.web.fc2.com
[運営] バザールカフェ・プロジェクト

[営業時間] 11:30～20:00(LO 19:30)
木・金・土曜のみ営業

[メニュー]
- 各国の日替わり料理　500円
- ロコモコ　700円
- コーヒー、紅茶　各350円 ほか

20
南区

にこにこや

地域の歴史に寄りそった、やさしさあふれる場所

皆で食べる美味しい食事が元気の源に

連日多くのお年寄りで賑わう「にこにこや」のランチタイム。南区にあるこの場所は、京都市地域・多文化交流ネットワークセンターとして、地域の集会所をはじめ、地域福祉センター希望の家や希望の家児童館、地域・多文化交流ネットワークサロンなどが併設されています。

もともと「希望の家」は、戦後の混乱期の影響を受けて生活が困難になった人たちをサポートする場としてスタートしましたが、時代の中で役割が少しずつ変化、児童館や保育園などが作られました。そして、喫茶スペースの「にこにこや」が現在の姿になったのは2011年の改装時。映画会や書道教室、パンづくりなどのイベントで施設を利用する人はもちろんのこと、近所の方に毎日おいしい食事を食べてもらいたいとの思いから、日替わりのランチが350円と手頃な価格で提供されています。

訪れる人たちは「元気だからここに来られる。ここに来るために元気でいる」と皆前向き。文字通りにこにことした笑顔あふれる場になっています。

☎075-691-5615
京都市南区東九条東岩本町31

[運営] 地域福祉センター希望の家

[営業時間] 9:30～15:00
土・日曜、祝日休

[メニュー]
- 日替わりランチ　350円

21
伏見区

飲食 情報 交流 高齢者 子ども 障がい者

みんなのカフェ ちいろば

**心も体もほっとする、
バリアフリーの町家カフェ**

みんなの居場所を目指して

京阪本線藤森駅から徒歩2分、商店街の一角にある町家で営業している「みんなのカフェちいろば」。1階の中庭には緑が生い茂り、大きな窓から優しい光が降りそそぐ広い店内は、バリアフリー工事が施され、訪れる人を選びません。

「ちいろば」は、配食サービス「ちいろば弁当」を前身とし、その志を引き継ついで2007年4月にオープンしました。高齢者や目の不自由な方にお弁当を届けていたこともあり、運営者の大山謙一さんは、「他の店舗と同じではなく、弱い立場の人にも開かれた場所でありたい」という思いを強く持っているそうです。

心にも体にも優しいものを

「ちいろば」には、“お客さんの回転率を上げない”というポリシーがあります。それは、「ゆったりとした空間でくつろいでもらいたい」という思いからきています。食事は、「ちいろばランチ」を中心にすべて手作り。介助犬や盲導犬の入店も受け入れ、「みんな」に優しい場所として、地域に着実に根ざしています。

☎ 075-643-2476
京都市伏見区深草直違橋4－370

[URL] http://www.oozu.co.jp
[運営] 大山謙一

[営業時間] 月～金曜　9:00～17:00
土曜　10:00～17:00
日曜、祝日休

[メニュー]
- ちいろば日替わりランチ　720円
（ドリンクセット　950円）
- 手ごね煮込みハンバーグセット　750円
- トーストセット　500円

22
下京区

飲食 交流 サロン 高齢者

かたりば 朋

**どこにもないから、
つくった居場所。**

毎日顔を見て、互いの元気を確認しあう

「かたりば朋」は、代表を務める横山正造さんが、「歳を重ねるごとに、自分の身の回りが寂しくなっていく」という妻の英子さんの不安を耳にしたことから始まりました。横山さんは、工務店経営の技術を活かし、自宅を一枚板のカウンターやテーブルを備えた高齢者の居場所に改修しました。

やがて地域の高齢者が集まるようになり、「かたりば朋」は、テーブルを囲んで紅茶を飲んだり茶菓子を食べたり、秋には鮮やかに色づく庭の紅葉を眺めたりしながら、おしゃべりを楽しむ場になりました。

お昼の日替わり定食は500円で、すべて英子さんの手作り。誰ひとり、好き嫌いも言わなければ、残すこともないそうです。

特にこれといったイベントを行わないのは、好き嫌いの分かれる趣味の活動を行うと、“誰でも来られる場所にする”という趣旨に反するから。肩に力を入れず、ごくシンプルにできることだけをする「住み開き」。「かたりば朋」はそんな「住み開き」のもつ力を伝えてくれる居場所です。

☎ 075-321-1618
京都市下京区梅小路東中町97

[運営] 横山正造

[営業時間] 10:00～16:00
木・日曜休

[メニュー]
- 日替わり定食　500円
- コーヒー　250円

23
北区

交流 サロン 高齢者

ひばりサロン

制度にかかわらず利用できる地域密着型サロン

手ぶらでふらっと、を目指して

京都市の介護予防事業の拠点として各区に設置されている地域介護予防推進センター。そのうちの1つ、北区地域介護予防推進センターに併設されているのが「ひばりサロン」です。

センター内の広いスペースでは、地域の人も数多く参加する認知症サポーター養成講座や、センター利用者向けの体操教室などが活発に開かれていますが、現在の仕組みでは、この人気の体操教室も、介護認定を受けてしまうと通えなくなってしまうことがあるとか。そこで、利用者同士がこれまでのように交流を続けられるようにとの配慮から、傍らにオープンスペースが設けられることになりました。

「ひばりサロン」の一番の特徴は、手ぶらで気軽に立ち寄っても時間を過ごせるよう、セルフサービスのコーヒーや紅茶のほか、編み物の道具や小説などが揃っていること。将来はここで作品展なども行い、趣味やおしゃべりを通じて、地域の人たちが活発に交流できる拠点を目指しています。

☎ 075-494-0318
京都市北区紫竹下緑町19-2

［営業時間］月曜　13:00～15:00
火・水・木曜　10:00～15:00
金・土・日曜休

［メニュー］●コーヒー　100円
●紅茶　100円

［運営］北区地域介護予防推進センター

24
北区

飲食 サロン 相談 高齢者 子ども

つどい場 てんきにな～れ

400種類のおむつが揃う、介護の悩みの駆け込み寺

クラフト教室や食事会なども人気の憩いの場

「つどい場　てんきにな～れ」代表の伊藤千秋さんは、もともと介護福祉士。その経験から、介護される人だけでなく、介護する家族も気軽に立ち寄れて、元気になれる場所が必要だと強く感じていました。その後、同僚で調理師の資格をもつ介護ヘルパーの和田晴美さんに声をかけ、町家の一角を改修して「てんきにな～れ」を開いたのは、2013年の1月のことでした。

「てんきにな～れ」の1部屋には、たくさんの成人用おむつが揃っています。400種類を数えるというサンプルは、介護の際に直面する成人用のおむつに対する疑問にすぐ答えたり、本当にフィットするものを探したりするのに役立ちます。けれど、それだけでなく、幅広い世代にこの場を利用してほしいと2人は言います。

現在は、ダイニングキッチンで予約制の食事会を開いたり、併設の「サロン耀」も使って様々な講習会や勉強会を行っていますが、これからは、自分たちの次の代にもこの活動をつなぐためのアクションを起こしていく予定です。

☎ 075-432-7229
京都市北区紫野門前町39

［営業時間］10:00～16:00
火・木・土・日曜、祝日休

［運営］伊藤千秋

［利用料金］500円（食事代別）

25
左京区

飲食 就労 サロン 障がい者

café はなみずき

自然に笑顔があふれる、やさしさの詰まったカフェ

丁寧な接客に癒され、気持ちまでやさしくなる

京都総合福祉協会が運営する「北山ふれあいセンター」の1階、開放的な空間にあるのが「café はなみずき」です。

扉を開けてはじめに目に入るのは、働いているスタッフの笑顔。「いらっしゃいませ」の言葉に、こちらも思わず笑顔を返してしまうやさしい空気。ここは、就労支援施設として障害をもつ人たちが働いている場でもあります。

北山通り沿いという立地の良さから、店に訪れるのは、地域の高齢者や子育て中のお母さん、学生や会社員まで幅広い層の人たち。「はなみずき」では、フードメニューも単品なら500円程度と手頃なため、ふと立ち寄ったり集ったりするのにちょうどよく、いつもにぎわいが絶えません。さらに、ここに来て嬉しくなるのはその丁寧な接客に触れたとき。忙しい気持ちで訪れた人も、この空間ではあっという間に穏やかな気持ちになること請け合いです。

スイーツのメニューも充実し、地域の人にも愛されるカフェは、今日も多くの笑顔であふれています。

☎ 075-702-1205
京都市左京区下鴨北野々神町26番地 北山ふれあいセンター内

［営業時間］10:00～16:00
土・日曜、祝日休

［メニュー］
- ロコモコ(ドリンク付き) 650円
- ハヤシライス(ドリンク付き) 650円ほか

［運営］NPO法人京都ほっとはあとセンター

26
伏見区

飲食 交流 サロン 高齢者 子ども 障がい者

ふかふか家

商店街の真ん中にある、暮らしの拠点

多くの人、団体に支えられる交流サロン

京都市伏見区にある深草商店街。車が行きかう賑やかな通りに面した、元は電気屋さんだったという明るい店舗が、現在の「ふかふか家」です。この場所がオープンする以前、商店街では地域の人たちにアンケートを行いました。すると、「買い物をしているときに、休憩できる場所が欲しい」という声が浮かび上がり、そこから「無料休憩所」「カフェ」「子育て支援スペース」など、さまざまなアイディアが広がりました。

その後、NPO法人や福祉団体、ボランティアからの協力も得て、少しずつ「ふかふか家」の内容が決まってきました。1階のカフェは就労継続支援B型事業所として障がいをもつ人の就労の場に。2階には子育て支援のためのコミュニティスペースとして使用されています。もちろん、初めにリクエストのあった「休憩できる場所」も併設されました。

カフェでは日替わりランチが人気。自家製ジンジャーエールなど、オリジナリティのあるメニューも、「ふかふか家」の自慢となっています。

☎ 075-634-9655
京都市伏見区深草直違橋2-435-3

［URL］http://fukafukaya.com

［運営］深草商店街振興組合・京都ふれあい工房・NPO法人京都子育てネットワーク

［営業時間］10:30～16:00
第2水・土・日曜、祝日休

［メニュー］
- 日替わりランチ 600円
- ぞうすい 550円
- 自家製ジンジャーエール 350円ほか

27
中京区

飲食 情報 交流 高齢者 子ども 障がい者

ハイ・どうぞ

**ほんの少し助けあって、
暮らしやすくなるために**

“困ったときはお互いさま”を実践する

JR二条駅から少し西に店舗を構えるコミュニティカフェ「ハイ・どうぞ」は、相互扶助を目的とした「NPO法人ふれあいほうむ“どうぞ”」の活動の一環として運営されています。サークル活動やイベントに使えるレンタルスペースも備えたカフェは就労支援施設でもあるため、障がいをもつ人たちが毎日元気に働いています。自然食材を使い、すべてが手作りの身体にやさしい食事を日替わりで提供していますが、なんといっても「ハイ・どうぞ」の特色は、店内での飲食サービスに限らず、店を訪れるのが大変な高齢者でも電話で予約すれば弁当を配食してくれるところにあります。弁当はワンコイン（500円）で、近隣に限り1つから配達可能。困ったときの「はいどうぞ」のひと言が、地域のお年寄りの心強い支えとなっています。

これまでは平日のみの営業でしたが、2014年4月からは、日曜限定の定食屋「つくったdeどうぞ」もオープン。ますます地域の人の拠り所として、存在感を増しています。

☎ 075-821-7060
京都市中京区西ノ京小倉町22-10

［営業時間］11:30～15:00　日曜、祝日休
日曜限定「つくったdeどうぞ」
11:00～15:00

［URL］http://www18.ocn.ne.jp/~douzo

［メニュー］
- ランチ　700円
- 弁当（配達または持ち帰り）　550円

［運営］小林敬子

28
中京区

飲食 就労 障がい者 若者

カフェレストラン あむりた

**地域に開かれた大学のなかで、
障がい者の就労と自立を支援する**

学生食堂兼就労支援施設という新しいスタイル

JR二条駅から歩いてすぐの場所にある佛教大学二条キャンパス。まだ新しい校舎のなかで、ひときわ明るくて賑やかな印象をみせているのが「カフェレストランあむりた」。ここは学生食堂でもありますが、就労継続支援事業所として障がい者の自立支援をサポートする就労の場という側面ももっています。

テーマは「共生」そして「バランス」

「あむりた」が目指すのは、「共生社会の実現」と「美味しさと優しさ」の提供。障害があってもなくても、共に生き、学び、成長する場であることはもちろん、生きていくうえでもっとも基本的なことである「食」を大切にし、バランスのよい食事を適切に食べることで、心身ともに健康でいることを目指しています。

“あむりた”とは、インド神話に出てくる不老不死の飲料で、その名を唱えるだけで幸せになるといわれているとか。「カフェレストランあむりた」も、この場にかかわる全ての人が幸せを感じられるように、との思いによって運営されています。

☎ 075-811-2252
京都市中京区西ノ京東栂尾町7 佛教大学二条キャンパス1号館1階

［営業時間］月～土曜　9:00～17:00
（夏休み・春休み期間は16:00まで）
日曜、祝日、お盆、年末年始、大学の閉館日は休業

［URL］http://www.amurita.org

［メニュー］
- パワーランチ　600円（学割後は500円）
- ヘルシーランチ　550円（学割後は450円）
- コーヒー　200円
- ゆず茶　250円

［運営］NPO法人中小企業家コンソーシアム京都

こんなまちの縁側・居場所になったらいいな

特定非営利活動法人 まちの縁側育くみ隊
代表理事
延藤 安弘

土から勢いよく生きる力を表す青菜、水辺でワクワクの男の子たち、うさぎと瞳の丸さを競いあう女の子、井戸掘りに心地よい汗を流すお父さん、香りのいい紅茶を間に歓談するお母さん、玄米ごはんと有機野菜に舌鼓をうつ若者、日だまりのネコとおばあさん、笑いヨガを多世代の人々と楽しむおじいさん、自分らしくまったりと振るまう障がい者、さざ波のようにひろがるヒヨドリのさえずり。ここには生きとし生けるものみんながつながりあう「ココロのが」がひそやかに息づいています。それがまちの縁側・コミュニティカフェ。

愛知・名古屋からは、そんな想いをこめた冊子を心をこめてつくりました。とともに、全国のこれまでの取り組みの中から、まちの縁側・居場所づくりで共通して大切にしたいことを12カ条としてくくりだしました。今後各地域の個性的輝きを帯びた居場所が、交流し育ちあえることを切望します。

大切にしたいこと12カ条

- 気軽にきて気軽に帰れる
- 一人ひとりがボーっとできる
- 老若男女がつどう場・かかわりあう場・出会う場
- 共につくり、飲み、食べ、歌い、話し、笑い、心晴れる場
- 人と人が交差する自由空間
- 多様な価値観を相互に受け止め、認め合える相互理解の場
- 友だちを作る（人的ネットワークを広げる）
- 相互にかかわる中からお互いに気づきあう場
- 自己表現・感動を分かち合う場
- もっと素敵な生き方にチャレンジするきっかけをもつ
- あらゆる情報の交差点
- 地域の中で起きているさまざまな問題解決の端緒の場

コミュニティカフェがまちをつくる

金沢の歴史が育む人と人をつなぐ場

特定非営利活動法人 金沢観光創造会議
代表理事
加茂谷 慎治

まちなかを網の目のように流れる用水。わきに設けられた洗い場はかつて、洗いものをする住民が集う場でした。城下町の小径（こみち）を抜けると突然、広見（ひろみ）と呼ばれる空間が広がります。藩政期、外敵を待ち伏せるために築かれたとも、火災の延焼を防ぐために設けられたともいわれる空間は、住民たちが輪を作り、話に花を咲かせた場でもあったのです。金沢は歴史の中で、地域コミュニティを育み、近代以降は公民館、善隣館がコミュニティの拠点となってきました。

東日本大震災を経験した私たちは、「きずな」「つながり」を見直すようになります。気軽に人とのつながりを確認できる場を求める中で、コミュニティカフェが生まれてきたように思われます。

米国の都市経済学者、リチャード・フロリダは「創造性は居心地のよい場所を求める」と指摘します。居心地のよい場所とは、「人に出会える場所」「文化に出会える場所」「開放的な場所」「安心感のある場所」であり、こうした場所が人々の欲求を満たす場所であるとも説きます。まさにコミュニティカフェこそ、こうした理想の場所ではないでしょうか。ガイドブックを参考に、理想の場所を探し出してみてください。

ご協力いただいたカフェ関係者、全国ネットワーク構築に尽力いただいた関係団体、公益社団法人長寿社会文化協会の皆様に御礼申し上げます。

コミュニティカフェの実践者の一人として

特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき
理事・事務局長
田代 美香

子育て、介護から環境、平和まで…地域で直面するいろいろな課題を自分たちの力で解決しようと試みる人々を、身近で見てきた私たちにとって、その活動をいかに持続可能にするかということは、常に大きな関心事でした。

彼らに「コミュニティビジネス」というやり方を提案すべく、起業相談を行ってきた経験を通じて見えてきたのは、多くの方が、「場」を設け、人と人をつなぎたいと考えているということです。

2012年、「相談に乗るだけでなく、実践者でありたい」と考えていた私たちは、“コミュニティカフェメサ・グランデ”をオープンしました。地産地消の小さな八百屋と、食べ方を提案するレストランサービス、コミュニティビジネスのノウハウを学べる講座や、飲食サービスを開業したい人向けのワンデイ・シェフなど、多様な顔を持つお店です。

このたび、全国のコミュニティカフェの事例を目にしたことで、いかに多くの実践者が善戦しているか、勇気づけられるとともに、新しいネットワークを築くことができました。気づけばこれこそが、コミュニティカフェを志す人に最も必要なことではないかと感じています。

この冊子を手に取った方には、ぜひ、気軽にお店を訪ねてみていただきたいと思います。情熱的でオープンな店主の皆さんの考えに触れたり、近くに住んでいながら出会う機会のなかったいろいろな人とのつながりが生まれたりすることで、日々の暮らしがより楽しくなり、貴方も何かを始めてみたくなるかもしれませんよ。

編集後記

古（いにしえ）の歴史を持つ京都。四季は変化に富み、祭りや名所、旧跡など、その魅力は奥深く、年間を通して訪れる観光客は引きも切りません。そんな華やかなまちなかに、その身を潜ませるように、コミュニティカフェはしっかりと根づいています。

今回、特定非営利活動法人つながるKYOTOプロジェクトの協力で、京都市内のコミュニティカフェを訪ね、多くの方と出会い、数々の“まちの居場所”を体感しました。学生街の一角、有名な寺院のそば、郊外の森の中。コミュニティカフェが開設された場所はさまざまです。訪ねて、扉を開けるとそこは、介護に当たる方の情報交換の場、認知症を抱える人たちがリラックスできる場、学生たちが集える場、ランナーが交流する場と多種多様な顔がありました。コミュニティカフェを訪ねるごとに、どんなカフェなんだろう、どんな世界が広がるのだろうと毎回、楽しみでした。このガイドブックを参考に、コミュニティカフェの扉を開いてみませんか。

加茂谷慎治

訪ねてみよう
あなたの「まちの縁側・居場所」
コミュニティカフェガイドブック
京都版

発行
特定非営利活動法人つながるKYOTOプロジェクト
〒602-8168
京都市上京区土屋町通出水上ル弁天町303番地
TEL　050-3593-6615
Mail　machi.ibasyo@gmail.com
URL　http://datsumuensyakai.jimdo.com

公益社団法人 長寿社会文化協会 WAC
〒105-0011
東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館1階
TEL　03-5405-1501
E-mail　com-cafe@wac.or.jp
URL　http://www.wac.or.jp

発行日
2014年3月25日

編集委員
平本毅　加茂谷慎治　さいとうゆうこ

アートディレクション・デザイン
株式会社エイチツーオー

＜メニューの価格については、変動する場合があります＞